

第3学年 国語科学習指導案

日時 平成24年9月27日(木) 5校時
生徒 3年B組(男子13名女子15名 計28名)
指導者 田毛 亜紀

1 単元名 「5 読む(吟味・判断) テクノロジーとの付き合い方・テクノロジーと人間らしさ」

2 単元の目標

- ・目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価して読み、人間とテクノロジーとの関係について自分の意見をもととする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・2つの説明文を読み比べて、構成や展開、表現の仕方について評価することができる。 【読むこと 指導事項 ウ】
- ・2つの説明文を読み比べて、人間とテクノロジーの関係について自分の考えを持つことができる。 【読むこと 指導事項 エ】
- ・文章に用いられている漢字を正しく読むことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 指導事項ウ(ア)】

3 単元について

(1) 教材観

本学習教材はテクノロジーを題材にした立場の違う2つの文章を読み比べることで、文章を吟味し、評価する力を伸ばすことをねらいとしている。

「テクノロジーとの付き合い方」は、テクノロジーが人間の外的身体能力を拡張した代わりに、内的な身体能力を衰えさせてきたと述べ、新しいテクノロジーと付き合うときには差し引きを考えて、ときには手を出さないという発想の必要性を提言している作品である。

一方、「テクノロジーと人間らしさ」は、現代において我々の根底的なところにまで食い込んでいくテクノロジーが人間らしさを喪失させるという批判は素朴すぎると述べ、新たなテクノロジーを使いこなす受け入れていくのが人間らしさであり、テクノロジーと人間との相互作用を捉えることの重要性を提言している作品である。

共通テーマをもちながら、異なる立場から書かれた2つの作品を比較して読むことを通して、【読むことウ 文章を読み比べて、それぞれの文章の書き方について評価することができる。】と【読むことエ 文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つことができる。】をねらいとする単元である。文章を読み比べたり、表現を比較したりすることを通して、複数の視点から物事を捉え判断し、自分の考えを持つ力を育成していく学習にふさわしい教材である。

(2) 生徒観

集中して話を聞く態度が身に付いており、進んで学習課題に取り組む生徒が多い。意欲的に声を出し音読活動に取り組んでいるが、自分の意見を積極的に発表する生徒は少ない。昨年度の学習定着度状況調査の結果、「話の展開をふまえて話し手の意図をとらえる」「書き手の論理の展開の仕方と正確にとらえる」の項目に落ち込みが見られた。3学年の1学期には「3 読む【構成・展開】絶滅の意味」において、「論理の展開の仕方に着目して、文章の内容を読み取」ったうえで、違う作品と比べ読みをし、「人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ」学習活動を行った。その

学習で、立場を明らかにし自分の考えを持つことはできたが、自分の考えの根拠となる部分を挙げることや文章の構成や展開の工夫を読み取る力はまだ弱い。普段のペア、グループ学習の際には、わからない生徒がわかっている生徒に聞いたり、他の生徒のつぶやきをヒントに活動を進めたりなど、小グループでの学び合いにより、自分の考えを広げたり深めたりしている。

本単元では、2つの説明的文章を読み比べることで、まず、構成や展開、表現の仕方について評価する力をつけさせたい。さらに、それぞれの筆者の考えや根拠をもとに形成した個の考えを、学び合いを通して、さらに広げたり深めさせることで再構築させ、自分の立場や根拠を明確にした意見文へとつなげたい。

(3) 指導の構想

第1次では、身の回りのさまざまなテクノロジーについて関心をもたせ、「テクノロジーとどう付き合うか」というテーマで意見文を書き、外部（新聞社）に発信するという単元のゴールを設定する。次に、第2学年の学習を振り返り、意見文の書き方を確かめた後、学習計画を立て見通しをもたせる。

第2次では、意見文を書くという目的意識をもち、2つの説明文を読み比べる。意見文の構成要素をもとに、それぞれの展開や構成を確かめ、筆者の考えが妥当かどうかを確かめる。参考となる筆者の考えや根拠をもとに個の考えを形成したうえで学び合いを行い、自分の考えを再構築させる。

第3次では、自分の体験や経験を交えながら、「テクノロジーとどう付き合うべきか」を意見文にまとめ、学級で交流する。その後、新聞社に投稿し自分の意見を発信する。

4 指導と評価の計画（6時間）

- ・「テクノロジーとどう付き合うべきか」をテーマに意見文を書く、という学習の見通しをもつ 1時間
- ・文章構成や展開、表現の仕方に着目し、「テクノロジーとの付き合い方」の内容をとらえている 1時間
- ・文章構成や展開、表現の仕方に着目し、「テクノロジーと人間らしさ」の内容をとらえている 1時間
- ・2つの文章を読み比べ、それぞれの文章を形式面と内容面から評価している 1時間
- ・根拠をもとに自分の立場を明らかにし、話し合いを通して考えを広げ深めることで、「テクノロジーとどう付き合うべきか」自分の考えをまとめている。 1時間（本時）
- ・「テクノロジーとどう付き合うべきか」について、自分の立場や考えが明確に伝わるように根拠をもとに意見文にまとめている 1時間

時	ねらい、学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<p>私たちの生活がいかにテクノロジーに囲まれているかということに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にある機器（テクノロジー）とその便利さを出し合う。 ・「テクノロジーとどう付き合うべきか」をテーマに意見文を書くという単元のゴールを設定する。 ・意見文の書き方を振り返り、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと、テクノロジーの具体例を挙げさせ、学習の見通しを持たせる。 	<p>国語への関心・意欲・態度 （観察・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の見通しを持ち、文章の内容に興味・関心を示している。

	<p>「テクノロジーとの付き合い方」を通読し、話の展開や内容の大体をつかむ</p> <p>・「テクノロジーとの付き合い方」の範読を聞いたあと、音読をする。</p> <p>・わからない語句は辞書で調べる。</p> <p>・初発の感想を交流する。</p> <p>・振り返りシートの記入。</p>	<p>・4人Gになり、ワークシートに記入した感想を交流し合う。</p>	<p>言語についての知識・理解・技能（観察）</p> <p>・文章に用いられている漢字を正しく読むことができる。</p>
2	<p>構成や展開、表現の仕方に注意して、「テクノロジーとの付き合い方」の内容を読み取る。</p> <p>・意見文の構成要素をもとに、構成や展開に着目し、筆者の主張やその根拠が妥当かどうか判断する。</p> <p>・振り返りシートの記入。</p>	<p>・4人Gになり、ワークシートに記入した内容を確認し合う。</p>	<p>読むこと ウ（ワークシート・発言）</p> <p>・構成や展開、表現の仕方に着目し、内容をとらえ評価する。</p>
3	<p>構成や展開、表現の仕方に注意して、「テクノロジーと人間らしさ」の内容を読み取る。</p> <p>・第2時の既習事項をもとに、構成や展開、表現の仕方に着目しながら、筆者の主張やその根拠が妥当かどうか判断する。</p> <p>・振り返りシートの記入。</p>	<p>・4人Gになり、ワークシートに記入した内容を確認し合う。</p>	<p>読むこと ウ（ワークシート・発言）</p> <p>・構成や展開、表現の仕方に着目し、内容をとらえ評価する。</p>
4	<p>2つの文章を比較し、形式面と内容面から評価する。</p> <p>・2つの説明文を比較し、筆者の主張とその根拠（内容面）や構成や展開、表現の仕方（形式面）における共通点や相違点を見つけ、ワークシートにまとめる。</p> <p>・見つけた共通点等をもとに書かれてある内容およびその書き方について評価する。</p> <p>・振り返りシートの記入。</p>	<p>・共通点や相違点について4人Gで確認し、内容などが理解しやすいかどうか評価し合う。</p>	<p>読むこと ウ（ワークシート・発言）</p> <p>・文章を読み比べて、それぞれの文章の書き方について評価することができる。</p>
5 (本時)	<p>テーマに対する自分の立場や根拠を明らかにし、交流活動を通して考えを広げたり深めたりする。</p> <p>・テーマに対する、自分の立場と根拠を明らかにする。 【個の考えの形成】</p> <p>・根拠をもとにグループで話し合い、考えを広げ、深める。 【学び合い】</p> <p>・学び合いをもとに、再度考え、ワークシートに記入する。 【考えの再構築】</p> <p>・振り返りシートの記入。</p>	<p>・付箋を貼る模造紙を用意する。</p> <p>・他の生徒の意見も参考にし、自分のワークシートにまとめさせる。</p>	<p>読むこと エ（観察・ワークシート・発言）</p> <p>・文章を読み比べて、「テクノロジーとどう付き合うべきか」について、自分の立場や根拠を明らかにした考えを持っている。</p> <p>・聞き取りメモを取りながら聞くように指示。</p>

5	人間は、「テクノロジーとどう付き合うべきか」についての意見文を書く。		読むこと エ（観察・ワークシート・発言） ・文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 前時で自分の選んだ立場や二つの文章の筆者の考えを確認したうえで、書くことを確認する。 自分の立場や考え、その根拠をどのような順序で書くかを検討し、効果的に伝わるように考えをまとめて書く。 グループで文章を読み合い、感想や意見を交換する。 他の人の文章の良い点を参考にしながら、文章を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文の例を教師が準備しておく。 自分の考えにつながる知識や経験を想起させる。 自分の考えが効果的に伝わるように、語句の使い方や表現を工夫し、文章全体を推敲させる。 	
	学習の成果を確かめる。		
	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートに記入し、自分の考えの深まりや広がり確かめる。 		

5 本時について

(1) 本時の目標

- 2つの説明文を比較し、「テクノロジーとの付き合い方」について、立場やその根拠を明らかにして自分の意見を持つことができる。【読むこと エ】

(2) 本時の評価規準

- 文章を読み比べて、「テクノロジーとどう付き合うべきか」について、自分の立場や根拠を明確にした考えを持っている。【読むこと エ】

(3) 本時指導の構想

① 学び合いについて

本学習教材で取り上げている二つの文章は、「人間とテクノロジー」について、異なる立場から書かれているものの、全く反対の立場から書かれているわけではない。そのような「人間とテクノロジー」についての両者の認識や見解、価値判断がそれぞれ説得力を持って述べられた二つの文章を、中学生が吟味したり批評したりするのは簡単なことではない。そこで、前時までにそれぞれの論の展開や筆者の意見をしっかり押さえさせたうえで、本時ではまず、2つの文章の相違点に着目させ、自分の考えがどちら側の立場に近いのかを明らかにさせる。次に、なぜその立場になるのかを文章の中から探し、その根拠を指摘させ、自分の考えをまとめさせる。それをもとにグループ内で話し合い、さらに学級全体で交流したうえで、個の考えを深めることが重要である。本時では、学習の最後に改めて自分の考えを振り返り、深めていく活動を行う。

② 振り返りについて

授業の最後に、「誰の意見・考えから何がわかったか・どう考えが変わったか」「どう思ったか」「学んだことを今後どう生かすか」を振り返らせ、発表させることで、学び合い活動の良さを実感させ、今後の学習意欲につなげたい。

6 本時の展開

段階	過程	学習活動	指導上の留意点	
			評価 [方法] 【観点】	学び合いを通して ねらいにせまる手だて
導入 5分	課題把握	1 前時の学習を想起し、 本時の見通しをもつ。 2 学習課題を確認する	今日の学習が何のための学習か自覚させる。	・提示して確認する。 4人G
		自分の立場を明らかにし、テクノロジーとどう付き合うかについて根拠をもとにして話し合おう。		
展開 40分	課題追求 課題解決	3 自分の立場とその根拠を明らかにする。 4 その根拠を発表し、それに対して意見などを述べる。 4人G 5 学び合いを通して、自分の立場を改めて考え、付箋紙を貼る。 6 グループごとの意見発表。 7 交流した意見をもとに、自分の立場とその根拠を再構築し、ワークシートに記入する。	二つの文章を比較し、述べられている内容について、立場を明らかにして自分の意見を持っている。[観察・ワークシート・発言]【読む エ】 《期待される反応》 A「慎重に活用する」に近い立場 「私たちがテクノロジーを当たり前で使用しているというBの意見はわかるが、ヒトとしての能力が衰えてしまうのは怖いので極力テクノロジーは使わないほうがよい。」 B「積極的に活用する」に近い立場 「確かにテクノロジーは人間の能力を衰えさせるかもしれないが、テクノロジーに囲まれている生活をしているのも事実で、切っても切れない存在である。だから、短所を十分に理解しながら大いに活用すべきだ。」 (B寄りのA) 「むやみに手を出さないほうがいい。でもテクノロジーに頼っているのが現実であることもわかるので長所と短所のバランスを取りながら活用すべきである。」 (A寄りのB) 「テクノロジーが当たり前の存在で、それを受け入れて使っているのが今後活用すべきだ。ただし、すべてテクノロジーに頼ってしまうのは、やはり危険であると思う。」	・2つの説明文の相違点に着目させる。 ・自分の立場に1番近い場所に付箋を貼らせる。 ・ 司会兼発表・記録・道具・発表補助を確認し、手順に沿って話し合いを進めるよう指示。必ず一人一発言。 ・ 聞き取りメモに聞き取ったこととそれに対する自分の考えを書くように指示。 ・納得できる場所、できないところを探るように指示。 [机間指導] ・ 自分の考えと比べながら、しっかり聞くように指示。 ・再度、個人思考の時間を取る。 ・ 他の生徒の意見も参考にし、自分のワークシートに記入するように指示。 [机間指導]
まとめ 5分	振り返り	8 振り返りを記入する。 ①「誰の意見・考えから何がわかったか・どう考えが変わったか」 ②「どう思ったか」 ③「学んだことを今後どう生かすか」		・ グループのメンバーで、互いの振り返りを読み合い、それぞれが何を学び感じ取ったのか確認し合う。 [机間指導] ・数名、全体で発表。